

# ダイワ・グローバル金融機関 (G-SIBs) 債券ファンド (為替ヘッジあり) 2017-01

## 運用報告書(全体版) 第18期

(決算日 2026年3月10日)

(作成対象期間 2025年9月11日~2026年3月10日)

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／海外／債券	
信託期間	2017年1月24日~2026年9月10日	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ・グローバル金融機関(G-SIBs)債券マザーファンドの受益証券
	ダイワ・グローバル金融機関(G-SIBs)債券マザーファンド	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債および国債
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、世界の銀行が発行する外貨建ての社債に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先(コールセンター)  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00~17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
	(分配落) 円	税込み 分配金 円	期中 騰落額 円	期中 騰落率 %				
設定(2017年1月24日)	10,000	—	—	—	—	—	—	100.0
1期末(2017年9月11日)	10,392	110	502	5.0	7.9	95.5	—	100.0
2期末(2018年3月12日)	9,844	80	△ 468	△ 4.5	0.3	94.9	—	100.0
3期末(2018年9月10日)	9,721	50	△ 73	△ 0.7	△ 0.2	98.4	—	100.0
4期末(2019年3月11日)	9,936	25	240	2.5	0.9	96.2	—	100.0
5期末(2019年9月10日)	10,513	25	602	6.1	3.1	99.0	—	91.3
6期末(2020年3月10日)	10,702	50	239	2.3	3.3	91.4	—	47.8
7期末(2020年9月10日)	11,107	110	515	4.8	4.3	96.1	—	39.1
8期末(2021年3月10日)	10,799	125	△ 183	△ 1.6	3.3	99.8	—	39.1
9期末(2021年9月10日)	10,838	135	174	1.6	3.3	97.8	—	39.1
10期末(2022年3月10日)	10,030	135	△ 673	△ 6.2	1.7	99.9	—	39.1
11期末(2022年9月12日)	9,458	70	△ 502	△ 5.0	0.7	101.3	—	39.1
12期末(2023年3月10日)	9,213	0	△ 245	△ 2.6	0.2	97.3	—	39.1
13期末(2023年9月11日)	9,108	0	△ 105	△ 1.1	0.0	97.7	—	39.1
14期末(2024年3月11日)	9,196	0	88	1.0	0.2	97.0	—	39.1
15期末(2024年9月10日)	9,231	0	35	0.4	0.2	92.7	—	26.0
16期末(2025年3月10日)	9,181	0	△ 50	△ 0.5	0.1	94.2	—	26.0
17期末(2025年9月10日)	9,186	0	5	0.1	0.1	97.7	—	26.0
18期末(2026年3月10日)	9,183	0	△ 3	△ 0.0	0.1	95.1	—	26.0

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

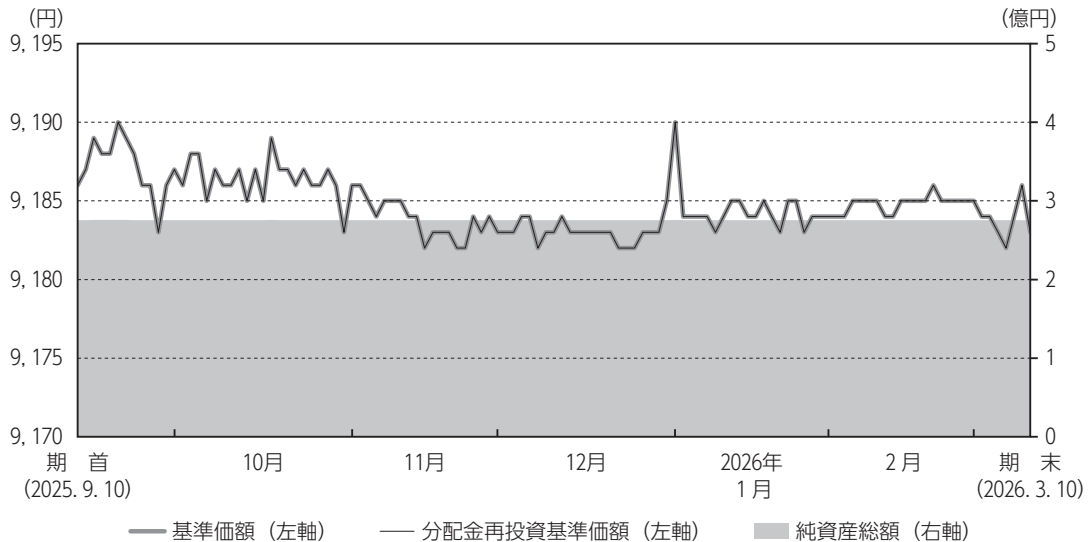
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：9,186円

期末：9,183円（分配金0円）

騰落率：△0.0%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド」の受益証券を通じて、主としてG-SIBsに指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行った結果、保有債券からの利息収入などはプラス要因となりましたが、為替ヘッジコストなどがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券ファンド（為替ヘッジあり）2017-01

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 券 比 率 先 物 比
	円	騰 落 率 %		
(期首) 2025年 9月10日	9,186	—	97.7	—
9 月末	9,187	0.0	98.6	—
10 月末	9,186	0.0	102.2	—
11 月末	9,183	△ 0.0	93.0	—
12 月末	9,190	0.0	94.4	—
2026年 1 月末	9,184	△ 0.0	92.7	—
2 月末	9,185	△ 0.0	94.1	—
(期末) 2026年 3月10日	9,183	△ 0.0	95.1	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

（2025. 9. 11 ~ 2026. 3. 10）

## ■ 米国債券市況

米国国債金利・社債金利ともに短期中心に低下（債券価格は上昇）しました。

米国債券市場では、当作成期首より、労働市場の悪化懸念が強まり、利下げ期待が高まったことなどから、2025年10月中旬にかけて、金利は低下基調で推移しました。しかしその後は、FRB（米国連邦準備制度理事会）議長が次回利下げについて慎重な姿勢を明確に示したことなどから、11月中旬にかけて金利は上昇（債券価格は下落）しました。11月下旬には、FRB高官の発言などを受けて年内の利下げ観測が高まり、金利は再び低下に転じました。12月は、FRBが利下げを決定し、さらに2026年の追加利下げを示唆したことなどから、短期年限の金利は低下しました。2026年1月は、グリーンランドの領有問題をめぐる欧米の対立やFRBの独立性への懸念などから米ドル離れの思惑が再燃したこと、米国で底堅い経済指標を受けて当面の利下げ観測が後退したことなどから、金利は上昇しました。2月は、軟調な雇用指標などから労働市場の悪化懸念が再び強まり、金利は低下しました。当作成期末にかけては、中東情勢の悪化などから原油価格が急騰したことを受けてインフレ懸念が強まり、金利は上昇しました。

米ドル建社債については、当作成期首より、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）はおおむねレンジでの推移が継続しました。2025年11月には、ハイテク株の下落により投資家心理が悪化したことなどからスプレッドは拡大しましたが、その後は利下げ織り込みが進む中で投資家のリスク選好姿勢が強まり、スプレッドは縮小しました。2026年2月以降は、さまざまな業種でAI（人工知能）による企業業績の圧迫が懸念されたことなどから、スプレッドは拡大しました。当作成期を通してみると、スプレッドは拡大した一方で、国債金利の低下を背景として社債金利は低下する展開となりました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド

主として、G-SIBs（※）に指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての債券に投資し、当ファンドの信託期間内に償還が見込まれる銘柄によるポートフォリオを維持することで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

※G-SIBs（Global Systemically Important Banks）とは

主要各国の中央銀行、金融監督当局等で構成される金融安定理事会（FSB）が指定した、金融システム上、世界経済に与える影響が極めて大きい重要な銀行をいいます。一般の銀行と比較し、自己資本の強化が要請される等、厳しい監督を受けることから、安全性の高い健全な経営が求められます。

## ポートフォリオについて

(2025. 9. 11 ~ 2026. 3. 10)

### ■当ファンド

「ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

### ■ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド

主として、G-SIBsに指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての債券に投資し、当ファンドの信託期間内に償還が見込まれる銘柄によるポートフォリオを構築しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当作成期は、ヘッジコストの水準が高く収益性が低迷しているため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が3,430,940円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益3,430,940円（1万口当たり114.36円）が分配対象額となりますが、上記の理由により、分配を行っておりません。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド

主として、G-SIBsに指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての債券に投資し、当ファンドの信託期間内に償還が見込まれる銘柄によるポートフォリオを維持することで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2025. 9. 11～2026. 3. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	25円	0. 273%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9, 185円です。
（投 信 会 社）	(15)	(0. 164)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(9)	(0. 095)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0. 019	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(1)	(0. 012)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0. 003)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	27	0. 291	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

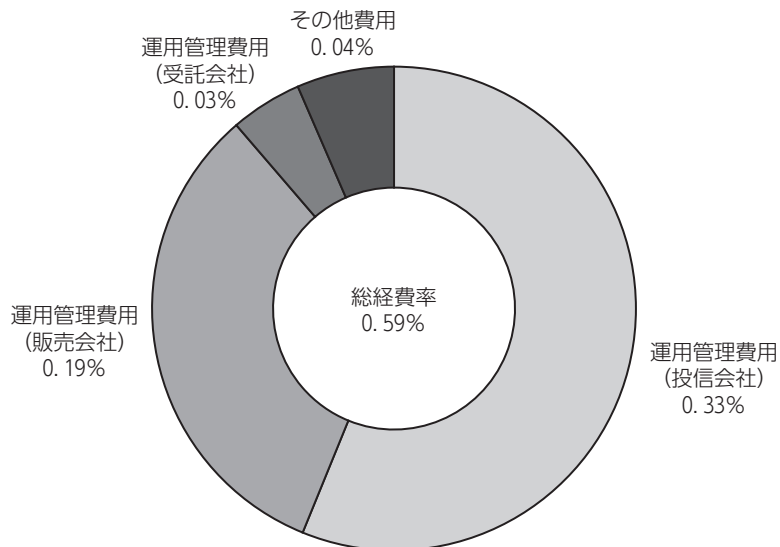
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.59%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

# ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券ファンド（為替ヘッジあり）2017-01

## ■売買および取引の状況

### 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2025年9月11日から2026年3月10日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド	—	—	12,010	22,600

(注) 単位未満は切捨て。

## ■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

## ■組入資産明細表

### 親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	口 数	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千口	千円
ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド	154,481	142,470	274,369	

(注) 単位未満は切捨て。

\* 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

## ■投資信託財産の構成

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド	274,369	97.1
コール・ローン等、その他	8,286	2.9
投資信託財産総額	282,655	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝157.73円です。

(注3) ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（1,042,688千円）の投資信託財産総額（1,166,879千円）に対する比率は、89.4%です。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	547,753,397円
コール・ローン等	8,286,293
ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド（評価額）	274,369,625
未収入金	265,097,479
(B) 負債	272,256,985
未払金	271,494,297
未払信託報酬	751,466
その他未払費用	11,222
(C) 純資産総額（A-B）	275,496,412
元本	300,000,000
次期繰越損益金	△ 24,503,588
(D) 受益権総口数	300,000,000口
1万口当り基準価額（C/D）	9,183円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,183円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は24,503,588円です。

## ■損益の状況

当期自 2025年9月11日 至 2026年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	7,200円
受取利息	7,200
(B) 有価証券売買損益	△ 14,116,095
売買益	9,192,327
売買損	△ 23,308,422
(C) 有価証券評価差損益	14,824,399
(D) 信託報酬等	△ 786,472
(E) 当期損益金（A+B+C+D）	△ 70,968
(F) 前期繰越損益金	△ 24,432,620
(G) 合計（E+F）	△ 24,503,588
次期繰越損益金（G）	△ 24,503,588

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 収益分配金の計算過程は6ページをご参照ください。

# ダイワ・グローバル金融機関（G－S I B s）債券マザーファンド

## 運用報告書 第19期（決算日 2026年3月10日）

（作成対象期間 2025年9月11日～2026年3月10日）

ダイワ・グローバル金融機関（G－S I B s）債券マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いません。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債および国債
株式組入制限	純資産総額の10%以下

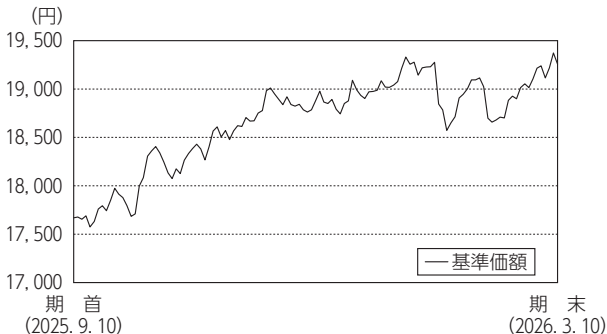
## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年月日	基準価額		公社債 組入比率	債券 先物比率
	円	騰落率 %		
(期首) 2025年9月10日	17,669	—	98.6	—
9月末	17,878	1.2	98.4	—
10月末	18,566	5.1	98.2	—
11月末	18,920	7.1	91.8	—
12月末	18,987	7.5	93.8	—
2026年1月末	18,714	5.9	93.5	—
2月末	19,015	7.6	93.3	—
(期末) 2026年3月10日	19,258	9.0	95.5	—

- (注1) 騰落率は期首比。
- (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。
- (注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。
- (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：17,669円 期末：19,258円 騰落率：9.0%

【基準価額の主な変動要因】

主としてG-SIBs（※）に指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、円安米ドル高や保有債券からの利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

※G-SIBs（Global Systemically Important Banks）とは、主要各国の中央銀行、金融監督当局等で構成される金融安定理事会（FSB）が指定した、金融システム上、世界経済に与える影響が極めて大きい重要な銀行をいいます。一般の銀行と比較し、自己資本の強化が要請される等、厳しい監督を受けることから、安全性の高い健全な経営が求められます。

◆投資環境について

○米国債券市況

米国国債金利・社債金利ともに短期中心に低下（債券価格は上昇）しました。

米国債券市場では、当作成期首より、労働市場の悪化懸念が強ま

り、利下げ期待が高まったことなどから、2025年10月中旬にかけて、金利は低下基調で推移しました。しかしその後は、FRB（米連邦準備制度理事会）議長が次回利下げについて慎重な姿勢を明確に示したことなどから、11月中旬にかけて金利は上昇（債券価格は下落）しました。11月下旬には、FRB高官の発言などを受けて年内の利下げ観測が高まり、金利は再び低下に転じました。12月は、FRBが利下げを決定し、さらに2026年の追加利下げを示唆したことなどから、短期年限の金利は低下しました。2026年1月は、グリーンランドの領有問題をめぐる欧米の対立やFRBの独立性への懸念などから米ドル離れの思惑が再燃したこと、米国で底堅い経済指標を受けて当面の利下げ観測が後退したことなどから、金利は上昇しました。2月は、軟調な雇用指標などから労働市場の悪化懸念が再び強まり、金利は低下しました。当作成期末にかけては、中東情勢の悪化などから原油価格が急騰したことを受けてインフレ懸念が強まり、金利は上昇しました。

米ドル建社債については、当作成期首より、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）はおおむねレンジでの推移が継続しました。2025年11月には、ハイテク株の下落により投資家心理が悪化したことなどからスプレッドは拡大しましたが、その後は利下げ織り込みが進む中で投資家のリスク選好姿勢が強まり、スプレッドは縮小しました。2026年2月以降は、さまざまな業種でAI（人工知能）による企業業績の圧迫が懸念されたことなどから、スプレッドは拡大しました。当作成期を通してみると、スプレッドは拡大した一方で、国債金利の低下を背景として社債金利は低下する展開となりました。

○為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、おおむねレンジでの推移が継続しましたが、2025年10月から11月半ばにかけて、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好姿勢が強まり、円安が進行しました。2026年1月は、日本の衆議院解散による積極財政推進への思惑などから円安が進行する場面もありましたが、為替介入の前段階とされるレートチェックを日米双方の当局が実施したとの観測などを受けて、円高が進行しました。当作成期末にかけて、日本の衆議院議員選挙の結果や日米高官の発言などを背景に、米ドル円は変動の大きい展開となりました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

主として、G-SIBsに指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての債券に投資し、当ファンドの信託期間内に償還が見込まれる銘柄によるポートフォリオを維持することで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

◆ポートフォリオについて

主として、G-SIBsに指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての債券に投資し、当ファンドの信託期間内に償還が見込まれる銘柄によるポートフォリオを維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として、G-SIBsに指定された世界の銀行が発行する米ドル建ての債券に投資し、当ファンドの信託期間内に償還が見込まれる銘柄によるポートフォリオを維持することで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	1 ( 1)
(その他)	( 0)
合 計	1

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2025年9月11日から2026年3月10日まで)

		買付額	売付額
		千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
外 国	アメリカ	702	—
		( —)	( —)
	社債券	346	200
			( 1,450)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 社債券には新株予約権付社債券（転換社債券）は含まれておりません。

(注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2025年9月11日から2026年3月10日まで)

買 付		当 期	売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額	
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND (アメリカ) 4.375% 2026/7/31	110,333	Barclays PLC (イギリス) 4.375% 2026/1/12	31,327	
ROYAL BANK OF CANADA (カナダ) 1.15% 2026/7/14	45,534			
MORGAN STANLEY (アメリカ) 3.125% 2026/7/27	7,660			

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)外国（外貨建）公社債（通貨別）

作 成 期	当 期							
	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	うちBB格 以下組入 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
アメリ カ	千アメリカ・ドル 6,500	千アメリカ・ドル 6,488	千円 1,023,451	% 95.5	% —	% —	% —	% 95.5

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入力しています。

# ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券マザーファンド

## (2) 外国（外貨建）公社債（銘柄別）

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日	
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額		
					千アメリカ・ドル	千円		
アメリカ	UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND	国債証券	4.3750	700	701	110,716	2026/07/31	
	JPMorgan Chase & Co	社債券	3.3000	600	599	94,594	2026/04/01	
	Mizuho Financial Group Inc	社債券	3.4770	400	399	63,045	2026/04/12	
	State Street Corp	社債券	2.6500	200	199	31,475	2026/05/19	
	Sumitomo Mitsui Financial Group Inc	社債券	2.6320	600	597	94,210	2026/07/14	
	HSBC Holdings PLC	社債券	3.9000	400	399	63,084	2026/05/25	
	Bank of New York Mellon Corp/The	社債券	2.8000	500	499	78,736	2026/05/04	
	UBS Group Funding Switzerland AG	社債券	4.1250	200	200	31,548	2026/04/15	
	CITIGROUP INC	社債券	3.4000	600	599	94,548	2026/05/01	
	BANK OF AMERICA CORP.	社債券	3.5000	600	599	94,566	2026/04/19	
	Wells Fargo & Co	社債券	3.0000	500	499	78,761	2026/04/22	
	MORGAN STANLEY	社債券	3.1250	600	598	94,410	2026/07/27	
	ROYAL BANK OF CANADA	社債券	1.1500	600	594	93,752	2026/07/14	
	合 計	銘柄数	13銘柄					
		金 額			6,500	6,488	1,023,451	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

\* 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

## ■投資信託財産の構成

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	1,023,451	87.7
コール・ローン等、その他	143,428	12.3
投資信託財産総額	1,166,879	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝157.73円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産（1,042,688千円）の投資信託財産総額（1,166,879千円）に対する比率は、89.4%です。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>1,166,879,498円</b>
コール・ローン等	134,641,692
公社債（評価額）	1,023,451,136
未収利息	8,764,320
前払費用	22,350
<b>(B) 負債</b>	<b>94,911,564</b>
未払金	94,911,564
<b>(C) 純資産総額（A－B）</b>	<b>1,071,967,934</b>
元本	556,630,275
次期繰越損益金	515,337,659
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>556,630,275口</b>
<b>1万口当り基準価額（C/D）</b>	<b>19,258円</b>

\* 期首における元本額は597,493,811円、当作成期間中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は40,863,536円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券ファンド（為替ヘッジあり）2017-01 142,470,467円

ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券ファンド（為替ヘッジあり）2016-11 139,001,406円

ダイワ・グローバル金融機関（G-SIBs）債券ファンド（部分為替ヘッジあり）2016-11 275,158,402円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は19,258円です。

■損益の状況

当期 自 2025年9月11日 至 2026年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	16,730,929円
受取利息	16,730,929
(B) 有価証券売買損益	76,600,162
売買益	76,625,804
売買損	△ 25,642
(C) その他費用	△ 64,439
(D) 当期損益金 (A + B + C)	93,266,652
(E) 前期繰越損益金	458,207,471
(F) 解約差損益金	△ 36,136,464
(G) 合計 (D + E + F)	515,337,659
次期繰越損益金 (G)	515,337,659

(注) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。